

全国の拠点との「関係力」を強化。業務効率の向上とコスト低減をも両立させるITインフラの再構築へ。



情報通信部 部長

小島 稔 さま

三立興産株式会社さま

創業：1946年 / 従業員数：150名

1946年の創業以来、工作機械業界のリーディングカンパニーとしてあらゆる業界にハイテク技術と生産システムを提供してきた三立興産さま。この度のリプレイスでは、従来のIP-VPN、広域イーサネットの専用線からインターネットVPNによるグローバル通信インフラを構築。同時にCRYP、インターネットタイムレコーダーも導入し、セキュアなリモートアクセスによる業務効率の向上とともに、大幅なコスト削減も達成されています。

導入商品

VPNソリューションパック/ネットワークサーバーパック
リモートアクセス "CRYP<クリプ>" / インターネットタイムレコーダー
ファイバーリンク light IP1 / ファイバーリンク pro IP1 / ファイバーリンク premium IP1

課題

企業ネットワーク（IP-VPN、広域イーサネット）の専用線からインターネットVPNへのリプレイスを行う。また、NTT東西による光接続サービス「Bフレッツ」を使用した回線の光化および増速。さらにCRYP、インターネットタイムレコーダーの導入によるリモートアクセス環境の構築を行いたい。

ソリューション

全国14拠点を結び社内ネットワーク網をVPNへ全面移行。回線速度を高速化しつつ、通信コストを大幅にダウン。目に見えるパフォーマンスの向上と同時に、各拠点を結び運用管理の負担も大きく軽減させた。また、CRYPも導入。8月からはインターネットタイムレコーダーも稼働している。

● 導入の背景

IT技術の活用によるスピードアップ業務とスムーズな管理システムを目標に。

1946年の創業以来、自動車産業とともに日本のモータリゼーションの発展に広く貢献してきた三立興産株式会社さま。現在は海外3拠点、国内に本社を含め14拠点で展開しており、日本国内はもとより海外の自動車産業、航空機産業、電子・電機産業へ信頼性の高い商品とハイテク技術を提供し続けている。

同社では1980年代より、いち早く自社開発のSHS（三立販売管理システム）による受注発注の一元管理等、IT技術の活用による迅速で確実な業務を推し進めてきた。全社のネットワークに関しては、専用線からLAN/WAN、イントラネット環境と発展。1996年には、全社員へ1人1台パソコンを配布し、専用線からフレームリレーへと切替えた。その後、IP-VPN網や広域LAN網へと移行。さらに、1997年には海外拠点ともインターネット網を介してE-mailや掲示板、営業報告といった情報共有を実現させるなど、いち早くネットワーク環境の重要性を認識し、導入してきたという経緯がある。そして、今回は、bit-driveの新たなソリューションを採用し、あわせてウィルコムからのPHSによるモバイル環境も整備する運びとなった。

「20年前は専用線の9600bpsという低速の時代ですから、通信費で月に150万～160万円。その後、約2年前にIP-VPNに乗り換えることで約100万円まで下げることができました。私自身、実をいうと2年前はインターネットVPNの信頼性や安定性について不安を感

じていたこともあり、手堅い通信ということでIP-VPNを採用したんです。ただ、IP-VPN自体は速いのですが、足回りは最大128kbpsまでが限界なので、パフォーマンスには不満がありました」と情報通信部 / 部長の小島氏はいう。

そんな小島氏がbit-driveとコンタクトを取ったのは2004年の11月。FeliCaの特性を生かし、Edyが付帯された社員証を導入しようと考えたのがきっかけ。そこで小島氏は、個人認証までをサポートするCRYPの導入検討を機に、通信費を大幅に削減するインターネットVPNにも注目した。「データベースやアプリケーション等の活用度が上がっても、ネットワークそのものがボトルネックになってしまうのは、せっかくのシステムが無駄になってしまう。bit-driveのシステムでは、スピードの増速はもとより、導入費用、通信費用をも低コストに抑えられることが魅力。インターネットVPNの導入により、大きなコストダウンが実現できると算出しました」と、小島氏は明かす。

ちょうど9、10、11月にかけてホストコンピュータ、各拠点のPCの入れ替えが進んでいた時期でもあり、タイミング的にもベスト。また、前期、常務取締役であり情報通信部の長であった加藤齊氏（2005年時点取締役社長）の後押しも、小島氏の決断の決め手となった。

「商社はスピーディで確実な業務展開が必須。三立興産では、早い時期からIT化を積極的に進めてきましたが、時代・技術の進化にマッチしたIT活用で、最適な営業体制を構築することが必要です」と加藤社長。こうして、スピードアップとコストダウン、さらにはリモートアクセス環境の構築等、全体的なシステムの更改を目標に、ネットワークデザインの構築がスタートした。

